

会 議 録

会 議 名	佐久市臼田文化センター運営委員会
日 時	6月1日(水) 午前10時00分～11時00分
場 所	佐久市臼田文化センター 会議室
出 席 者	委員7名
	事務局3名

【会 議 内 容】

1 開 会

- 2 あいさつ 会長
文化振興課長

3 会議事項

(1) 令和3年度事業報告について

別添報告書のとおり事務局より説明。

(2) 令和4年度実施予定事業について

別添実施予定事業のとおり事務局より説明。

以下の質問や意見が出された。

(3) 令和5年度実施事業計画について

今後の臼田文化センターの用途廃止にむけた検討事項について説明

以下の質問や意見が出された。

《質疑応答》

○令和4年度実施予定事業について

《質疑応答》

委員：丸岡秀子氏以外の臼田地域の方々の企画展も行っていただきたいと思います。

事務局：臼田地域の方々も素晴らしい先人がたくさんいますが、丸岡秀子氏の碑を現地で見
て、その際にその他の先人たちの石碑もあるので、そこで臼田の文化人たちのお話しがで
きる機会があれば、企画展中に「稻荷山の文学碑散歩」ということも企画できればと考えてお
ります。丸岡秀子氏は、農村女性の自立ということで取り組んだ方なので、是非皆様のお知
り合いの女性団体、子育てサークルなどの方をお誘いいただければと入館者も増えると思
いますのでよろしくお願いたします。

委員：稲荷山には文化人たちの詩があるのですが、ほとんどの方が知られておりません。そのような企画を行うことは良いことだと思います。

委員：地元の人が見に来るといことがほぼないと思われませんが、今後は地域の子供たちにこういう貴重な遺物があることを受け継いでいかなければいけないと思います。

もっと子供たちに見てもらって、触れてもらうことを繰り返しやっていかないと根付いていけないので、小中学生の子供たちにどうアピールしていくかということが大事かと感じますので地域人たちと一緒に考えていければ思うが、学校での取り組みも大事かと感じております。

委員：学校の授業の中で、毎年、望月歴史民俗資料館へ社会科見学に行くことがあります。望月歴史民俗資料館は子供たち向けに体験できるようなものとなっています。

その中で、子供たちにもっと歴史や文化に興味をもって一歩でも踏み込んでもらえるようになれば良いと感じます。

また、学校だけでなく、地域の保存活動を行っている方たちにお願ひし、子供たちに臼田の歴史について触れる機会もあっても良いと思います。

委員：例えばイラストなどにして分かりやすく展示することも大事だと思う。

事務局：ご意見として賜りました。

委員：望月歴史民俗資料館は展示がしっかりされており、民具も当時どのように使われていたか分かりやすくなっています。

臼田文化センターの隣の施設に当時の民具がたくさん収蔵されていると思うので、そのようなものを活用し、郷土のことにもっと目を向けてもらえるような企画展示の取り組みも有効かと思ひます。

事務局：展示スペースもかぎられておりますので、多くの民具を展示することは難しいと思ひますが、少しでも郷土の展示コーナーなども考えていければと思ひます。

委員：川村清人氏の工芸品について、どのようなものがありますか。

事務局：昭和49年に寄贈されたものですが、陶器や出土土器、民具、書画、骨董など300点が収蔵庫の中に保存されております。

委員：郷土の図書の活用ということで、図書は目録として整理されてはいますか。一般的に売られているような書籍ではないのものもあると思ひますので、目録になっていることは大事だと思ひております。また貴重な書物もあるので、簡単に処分することは避けていただければと思ひます。

事務局：貴重な郷土図書が多くあるので、処分することは考えておりません。今後も市民の

方が閲覧しやすいよう管理や保存について心がけていきたいと思えます。

令和5年度実施予定事業について

《事務局説明》

臼田文化センターにつきましては、佐久市公共施設等総合管理計画に基づく個別施設計画の基本方針といたしては、令和8年度までを目途に廃止する方針となっております。当施設の個別施設計画の策定にあたっては、施設の方向性を判定するために、施設の健全性や機能性、利用者ニーズなどの施設評価を実施しました。

その評価結果、建物の躯体や電気機械設備などが、著しく劣化していることに加え、利用者の減少や収益性がなく、維持管理コストなどの課題もある中で将来的に大規模改修や建て替えを行い、維持していくことは、極めて難しいことから用途廃止するという方針が示されました。

なお、これに関する方針につきましては、昨年7月のタウンミーティング、12月の住民説明会やパブリックコメントで公表しご意見を伺ってきたところでございます。

この用途廃止に伴い、課題となっている事項がありまして、令和4年度中に移転先の検討、既存施設のスペースを活用した考古遺物等の展示場所の検討、郷土図書の移転先の検討を行い令和5年度中に移転できればと考えております。

ただし、検討事項がクリアできなければ、先に進めませんので、課題の検討の状況では、令和5年度も通常どおり運営していくことも考えられます。

《質疑応答》

委員：展示場所について、他の施設の空きスペースはあるのですか。

事務局：展示場所につきましては、常設展示という形では難しいと考えておりますが、例えばコスモホールや川村吾蔵記念館、鎌倉彫記念館などのスペースを有効活用し特別展示といったことで2か月間開催するといったようことで、期間限定で実施できないか検討しております。

委員：改築するということは考えられないのですか。

事務局：当施設は、利用者の減少している状況であり収益性がなく、維持管理コストなどの課題があります

将来的に人口減少や市税の減収などが見込まれている厳しい状況の中で、改築や大規模改修などの長寿命化といったことは難しいと考えております。

委員：郷土図書は図書館で広く皆さんに見ていただくことは良いと思う。貴重な書物なので大事に保存・管理いただきたい。

事務局：ご意見賜りました。

